

原初「倭のクニ」は朝鮮半島の北から南迄の大部分を支配していた。

その後、倭政権は高句麗・新羅等との戦禍から抜け出て日本列島に進出した。

井上達明建築事務所 正会員 ○井上 達明

I) この稿は、比較文献史家 山形明郷(1936-2006)の著書『卑弥呼の正体 虚構の楼閣に立つ「邪馬台国」』に基づき、原初「倭のクニ」は仲哀天皇(在位 AD192-200)の頃、朝鮮半島の北から南迄の大部分を支配していたとする主張である。この事実は、山形明郷が後掲のシナ史書古典及び歴史地理系の文献、即ち司馬遷の史記、又、戦国策、漢書、三国志、魏書、周書、高麗史から日本書紀等々膨大な史書又は資料を渉猟し盡して研究し究明した史実である。

山形の学説は日本・朝鮮・支那の学会で通説とはなっていないものの、日本国内では東北大学の名誉教授 井上秀雄が「私と一致する所少なからず、大いに意を強くしている次第です。(94. 10. 17)」と述べ、シナでは北京大学亜非(アジア・アフリカ)研究所教授 劉渤が「山形先生は、古代北東アジア史を解明する上で避けて通れぬ『古朝鮮』から筆を起し、その所在の詮索がなされていることは、極めて高く評価することができます。私はこの論文を翻訳して広く中国の史学者達に紹介したい。(94. 11. 7)」と述べている。又、吉林大学教授 林昌培は「それにしても、貴下はよくぞ独学でここまで掘り下げられましたね。漢書をこんなに膨大な量を読んでいる中国人はいないのではないか。内容は申し分ない。ほとんどその通りでありましょう。(04. 2. 29)」と述べている。南朝鮮では韓国国民大学校学長 李鐘恒(イ・チョンハン)が「私も『倭・倭国』が古代日本、或いは『大和朝廷』とする見解には疑いを抱いており、

『倭』とは韓半島の大部分を占める在地現住勢力であり、その数(人口)は極めて膨大なものであったことが判明しています。紀元前後から6世紀中葉頃迄、私の所論について、山形先生が同調してくれたことは非常に嬉しくもあり、又心強く感じております。だが未だこのような歴史解釈は韓国史学界では一部の少数の学者の見解で、浸透するには時間がかかるでしょう。(98. 10. 18)」と述べている。

II) 「魏志倭人伝」は「倭人は『帯方』の東南、大海の内に入り……」と述べる。『帯方郡』は現在の遼寧省海城市以南の遼東半島方面にある。「大海」は現在の黄海であり、この黄海を前面に控え、南北に伸展している朝鮮半島の全体を意味する。当時の「倭国」も邪馬台国も卑弥呼も、現今巷間のみならず専門家の世界でも云々されているような「北九州」でもなければ、まして「奈良・大和」では決してない。(図1・図2参照)

III) ここからは「古事記」と「日本書紀」に移る。681(天武10)年頃、天武天皇は「帝紀」や「旧辞」を舎人(役人)稗田阿礼に誦み習わせた。



図1

キーワード 倭のクニ, 朝鮮半島, 卑弥呼, 魏志倭人伝, 日本列島への進出, 天孫降臨

連絡先 〒555-0011 大阪府大阪市西淀川区竹島3丁目7番4号 井上達明建築事務所 TEL: 06-6478-1028

公孫氏の勢力圏図と蓋馬国のエリア(2世紀中葉から3世紀初頭)



図2

朝廷の文官(大臣)である太安万侶が阿礼の口述を聞いて筆録し、内容の虚実なども丹念に調べ直して再編集した。712(和銅5)年「古事記」全3巻を元明天皇に献上した。歴代天皇の系譜だけでなく、天皇の誕生につながる神話の時代も詳細に収録するなど、天皇家を神聖化することで国家支配の正当性を示す内容となっている。

「日本書記」全30巻は天武天皇の実子 舍人親王が最終的に取りまとめ、720(養老4)年に元正天皇に献上した。朝廷の実力者だった藤原不比等も編纂に参加し、側近の渡来人と共に重要な役割を果たした。

「日本書記」は国家の公式な歴史書である正史として

て編纂を開始。「帝紀」「旧辞」の他、シナ、朝鮮の歴史書や宮廷・寺院・豪族による記録、各地に伝わる伝承等も取り入れ、完成までに40年も歳月を費やす一大国家事業となった。国外に向けた日本初の正史として漢文で編纂された。

IV) ここで筆者の推測に入る。数百年間、朝鮮半島の大部分を占める在地現住勢力として歴大な人口を抱え栄えていた「倭のクニ」は、6世紀中葉頃(李鐘恒学長の推測による)何故に日本列島への進出を決断したのか?

世界史には、紀元前4世紀のアレクサンドロス(Alexandros)のマケドニアからギリシャ・ペルシャ・インド迄長征した後バビロンに凱旋した歴史や、ヨーロッパで4世紀のノルマン人のヴァイキング等がある。「倭のクニ」も、出雲国の大国主命が既にクニを治めていたもの他に巨大な勢力が無かった為ではないか? 日本列島に進出した「倭のクニ」の政権——sovereign 君主はその自尊心或いは誇りを保つ為、朝鮮半島での出自は全く棚上げして「古事記」及び「日本書記」で「天孫降臨」という壮大な仕掛けの物語を生み出した。記紀編纂上かなり重大な決断であったと筆者は推測する。今となって判明したことは、朝鮮半島には火山が無く台風も少ない、但し「シナ」という大国を北に控え「半島という宿命」も大儀(苦勞)なことである。

V) 山形明郷が広く涉猟し、深く読み込んだ参考文献(その一部)

| | | | |
|----------|-------------|----------|----------|
| 史記 | 西漢・司馬遷 | 三国史記 | 高麗・金富軾 |
| 戦国策 卷六秦四 | 西漢・劉向 | 三国遺事 | 高麗・一然 |
| 漢書 | 東漢・班固/娘(班昭) | 高麗史 | 李朝・鄭麟趾 |
| 後漢書 | 宋・范曄 | 日本書記 | 日本・舍人親王他 |
| 三国志 | 晋・陳寿 | 説文解字 | 東漢・許慎 |
| 魏書 | 北齊・魏収 | 宋本・冊府元龜 | 宋・王欽若 |
| 周書 | 唐・令狐德棻 | 康熙字典 | 清・官修 |
| 宋史 | 元・脱脱 | 好太王碑探訪記 | 日本・井上秀雄 |
| 元史 | 明・宋濂 | | 寺田隆信・編 |
| 明史 | 清・張延玉 | 倭・倭人・倭国 | 日本・井上秀雄 |
| 清史稿 | 民国・趙爾巽 | 日本古代史の謎 | 日本・八幡一郎 |
| 水経注 | 北魏・酈道元 | アジアの征服王朝 | 日本・愛宕松男 |
| 資治通鑑 | 宋・司馬光/元・胡三省 | 西域 | 日本・羽田明 |
| 十八史略 | 元・曾先之 | 古代インド | 日本・佐藤圭四郎 |
| 奉天通志 | 民国・王樹楠 | | |

《参考文献》 1) 「卑弥呼の正体」山形明郷、(株)三五館、2010年

2) 「古事記・日本書記のすべてがわかる本」多田元、ナツメ社、2011年